





北大病院のCSRレポート発行に際して

最初に、CSRという、皆様にあまり馴染みのない言葉について、ご説明させていただきます。

CSR(Common Social Responsibility)は、様々な意味で使われています。一般には、企業など社会活動をしている団体が、その団体の営利目的や使命を果たしつつ、広く社会貢献する活動と考えれば分かりやすいと思います。

北大病院などの医療機関は、地域の医療を通じて社会貢献することが第一の使命です。一方で、外来患者さんや入院患者さんへの医療対応のみならず、医療分野以外の活発な活動により、広く、地域社会への貢献を目指しています。最近では、こうした病院の院外活動、あるいは院内の日常診療とは異なる活動を広くCSRと表現しています。

それは、社会の共通利益・価値、Common Social Valuesを高めるという点で、営利を求める企業も、医療活動を行う病院も、同じであるという考え方につながります。さらに、世界に目を向けると、この考え方は、国連が提唱しているSDGs(持続可能な開発目標)ともつながります。

このCSRレポートでは、北大病院の関係者が、日常の診療を離れて行っている様々な社会貢献活動やボランティア活動を紹介しています。ぜひ、ご一読いただければ幸いです。

北海道大学病院長

寶金 清博

HOUKIN Kiyohiro



理念と目標

理念

北海道大学病院は、良質な医療を提供すると共に、優れた医療人を育成し、先進的な医療の開発と提供を通じて社会に貢献します。

目標

- 患者本位で安心・安全な医療の提供
- 人間性豊かで有能な医療人の育成
- 先進的な医療の開発と提供
- 地域医療への貢献

わたしたちの
社会貢献活動



北大病院を彩る、 多種多様なイベント。

北大病院は、高度な医療を提供する「特定機能病院」として、日々の治療に全力を尽くし、一人ひとりの患者さんと向き合っています。また、地域を代表する医療機関として、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

ここ2年間で実施したイベントは170件。市民向けの講演会や公開講座は65件を数え、数百名が参加する大規模なものから数名を対象にした少人数の実践的なものまで様々です。

このような一般の方を対象にしたプログラムはもちろん、医療従事者や関係職種に向けての研修会も数多く実施しています。なかでも、緩和ケアやエイズ診

療に関する研修を継続的に行っており、がん診療連携拠点病院、そして、エイズ診療ブロック拠点病院として、地域医療に貢献しています。

さらに、大学病院である強みを活かして外国からの医師団を受け入れ、セミナーを実施。海外の医療水準の向上にも寄与しています。

北大病院は、フロンティアスピリットを大切に、国内外からの高い期待に応えていきます。今後も多種多様な取り組みにご期待ください。



◀ ▲ フィリピンからの医師団にセミナーを実施

新たな医療モデルによる、 夕張市での地域貢献。



▲ 夕張市の全景

2017年9月、北大病院は夕張市と「住民の健康増進に関する連携協定」を締結しました。夕張市民の健康増進を目的に、健康分野で相互に協力し、地方創生に貢献することを目指した、北大病院が地方自治体と連携協定を締結した初のケースです。

具体的な取り組みとして、夕張市立診療所との医療連携を進めています。スマートフォンの医療用アプリを活用した診療ネットワークを構築することにより、夕張市立診療所がスマートフォンから送信した脳のCT画像を北大病院が受信。北大病院は、患者さんが夕張市から救急搬送される際、その画像を基に受入体制を整えることができ、患者さんの到着後には、速やかに手術に取りかかることが可能になります。また、北大病

院の専門医が、夕張市立診療所から送信された脳疾患疑いのある患者さんの医療画像をスマートフォンで確認し、診断のアドバイスを行うなど、夕張市立診療所の診療をサポートすることも期待されています。

さらに、連携協定の一環として、夕張市において「市民のための生活習慣病講座」を開催しています。2017年度には糖尿病や脳梗塞の治療に携わる北大病院の医師が、そして2018年度には認知症をテーマに医師と認知症看護認定看護師が、100名を超える市民の方に向けて講演し、健康への啓発活動を行っています。

北大病院はこれからも、高齢化・過疎化が進む夕張市とタッグを組み、新たな医療モデルを創造していきます。



▲ 夕張市での連携協定締結式

▼ 緑が美しい夕張市の「滝の上公園」



生活の質を高める、 看護のチカラ。



▲ 好評な「看護相談コーナー」

◀ 看護師が心臓マッサージを実演

看護部には約1,000名の看護職員が所属しており、24時間体制で質の高い看護を提供しています。また、社会貢献の取り組みの一環として、より健康になり、生活の質を高めるための啓発活動にも力を入れています。

5月12日のナースの日を含む看護週間には、看護に関わるいくつかのイベントを行っており、院内の医科外来ホールに設置する「看護相談コーナー」には、例年100名を超える多くの方からの相談が寄せられます。看護師は、相談者との対話を積み重ねながら病に関する正しい知識と予防について伝えることで、相談者の不安を和らげ、好評を得ています。そして、「ふれあい看護体験」には、札幌市内と近郊の高校生二十数名が参加。看護師の指導のもと、高校生は看護の実際を体験することによって仕事の理解を深め、看護の重要性を認識していきます。その後

は、高校生にとって身近なテーマの講演会を実施し、自身の体に対して問題意識を持たせる話題を提供するなど、工夫を凝らしています。

看護部では、これらの取り組みのほか、広く社会に向けて市民公開講座を行っています。“家庭で活用できる看護の知識・技術”をコンセプトに、心臓マッサージの方法やAEDの使い方を学べる内容から、骨盤底筋体操を体験できるプログラムまで、バラエティに富んだ少人数制の実践的講座です。

いざという時に備え、充実した生活を送るためにも、ぜひ参加してみませんか。

www.huhp.hokudai.ac.jp



医食同源、 おいしい健康ごはん。



▲ 人気の「セミナー&料理教室」

◀ ノウハウ満載のレシピ本

▼ 北海道豊富町の
新鮮な牛乳・バター使用
「うしからもらったアイス」



栄養管理部では、管理栄養士や調理師など総勢150名のスタッフにより、食事や栄養面から患者さんをサポートしています。また、年々増加する生活習慣病患者さんを対象に、これまでのノウハウを活かし、食事や栄養の情報を広く発信しています。

その取り組みのひとつが、レシピ本『北海道大学病院のおいしい健康ごはん』です。高血圧、糖尿病、高尿酸血症、脂質異常症とその予備軍を対象としたレシピを取り上げ、実際に病院で提供しているメニューも掲載しています。病気の特徴や食事作りのポイントなどを分かりやすく解説しており、食事療法の基本を学ぶことができる内容になっています。

また、栄養管理部の医師と管理栄養士が講師となって開催する「セミナー&料理教室」には、毎年、道内各地から多くの方にご参加いただいています。生活習慣病に関するホットな話題や、栄養相談に携わってきた管理栄養士による料理教室は、日常の栄養管理や食事作りに役立つ情報が盛りだくさん。参加者全員で調理を行い、できたての“おいしい健康ごはん”を囲んで場も和み、情報交換や日頃の疑問をスタッフに気軽に質問できるのも、このイベントならではの魅力です。

さらに、地元企業との産学連携により、高齢者や患者さんの栄養補給を視野に入れた高たんぱく質のアイスクリーム「うしからもらったアイス」を開発し、院内においても病院食としての提供が実現しました。

病院食は“究極の健康レシピ”です。栄養管理部発の食情報にぜひご注目ください。



チーム一丸となり、 18年にわたるベトナムでの 無償医療援助活動。

ベトナム南部に位置するベンチュ省で、生まこうしんこうがいつれつき唇や上あごが割れている口唇口蓋裂を患う子供たちへの無償手術と、現地医療者への技術指導を行っています。

この地域は、ベトナム戦争時の枯葉剤大量散布で先天異常の発症が多い地域といわれ、特に発生頻度の高い口唇口蓋裂は、活動当初、現地に治療できる医師がおらず、手術を受けずに大人になった方が多く存在していました。この疾患では生命が脅かされることはまずないのですが、顔面口腔の形態や機能が損なわれ、適切な手術を早期に受けなければ人としての尊厳や言語コミュニケーションが失われた人生を強いられてしまいます。

特定非営利活動法人「日本口唇口蓋裂協会」による無償医療援助活動に賛同して始まったこの取り組みには、高次口腔医療センターとして2000年から参加。年末に10日ほど現地に滞在して活動し、診察には毎回百数十名もの患者さんが訪れます。この18年間で無償手術は100件を数え、北大病院チームとして参加した歯科医師・看護師は延べ40名にもなります。

ベトナムの子供たちやご家族の笑顔を糧に続けてきたこの活動は今や転換期を迎え、今後は、手術後の言葉の訓練や咬み合わせの治療など継続ケアへとステップアップしていきます。



▲術後患者に処置する
三古谷忠先生

▶術後の回復室で



『病院紹介』

歴史

北海道大学病院は、2021年に開院100周年を迎える歴史ある病院です。

1921(大正10)年

北海道帝国大学医学部附属医院が
設置され、11月から診療開始。

1967(昭和42)年

北海道大学歯学部附属病院が
設置され、8月から診療開始。

2003(平成15)年

医学部附属病院と歯学部附属病院を
統合し、10月に北海道大学病院設置。

がんサロン

腫瘍センターでは、「がんサロン」を開催しています。病気や治療について情報交換でき、気兼ねなくお話しできる交流の場です。北大病院に入院・通院されていない方も歓迎していますので、気軽に参加してみませんか。

がんサロンなないろ

対 象：がん患者さんと、そのご家族
開 催 日：第1金曜日 茶話会
第3金曜日 ミニ講義(30分)後、茶話会
時 間：13:30~15:00
お問合せ：腫瘍センター がん相談支援センター
Tel: 011-706-7040

ゆるりサロン

対 象：小児がん患者さんのご家族
開 催 日：月1回
時 間：13:30~15:00
お問合せ：腫瘍センター 小児がんチーム
Tel: 011-706-7758

※事前申し込みは不要です。外来新棟1階「腫瘍センター サロン」にお越しください。

北大病院ゆめ募金

最先端の医療を提供し続けるとともに、将来の医療を支える人材を育成するため、「北大病院ゆめ募金」を設立しました。

- 1 患者さん本位で安心・安全な医療の提供
- 2 人間性豊かで有能な医療人の育成
- 3 先進的な医療の開発と提供
- 4 地域医療への貢献

4つの目標を実現するため活用して参りますので、「ゆめ募金」にご協力くださいますようお願い申し上げます。

www.huhp.hokudai.ac.jp/hotnews/detail/00002007.html

マップ

JR
札幌駅 > 徒歩約15分

地下鉄 南北線
北12条駅 > 徒歩約6分
北18条駅 > 徒歩約7分



『データでみる北大病院』

2018年6月1日現在

組織

病床数

医科診療科 29 歯科診療科 12 中央診療施設等 27 その他の部門 23

939床(承認病床数 944床)

患者数

平成29年度

外来患者 739,484人(1日平均 3,030人) / 入院患者 294,840人(1日平均 807人)

詳細は右表を参照

職員数 | 2,677人

教授 7人(31人) / 准教授 26人(30人) / 講師 62人(6人) / 助教 149人(59人) / 医員・研修医 631人 / 薬剤師 69人 / 薬剤技術職員 15人
看護師 930人 / 看護技術職員 125人 / 医療技術職員 229人 / 管理栄養士 7人 / 事務職員・技術専門職員 329人 / その他の職種 98人
※非常勤職員を含む。()内は、医学研究院、歯学研究院、及び薬学研究院所属の臨床系教員数で外数。

拠点病院 | 9

エイズ診療拠点病院 / 災害拠点病院(地域災害医療センター) / がん診療連携拠点病院 / 肝疾患診療連携拠点病院 / 小児がん拠点病院
造血幹細胞移植推進拠点病院 / 原子力災害拠点病院 / 臨床研究中核病院 / がんゲノム医療中核拠点病院

国際交流協定 | 部局間交流協定 6カ国・地域 9機関 | 国際医療連携病院 2カ国 2機関(★印)

台湾 | 01. 国立台湾大学医学部附属病院 02. 台北医学大学双和病院 タイ王国 | 05. チュラロンコン大学医学部
03. 輔仁大学外国語文学院 04. 輔仁大学附属病院 | 06. ウェッターニホスビタル ★

シンガポール共和国 | 07. 南洋理工大学医学部 ロシア連邦 | 08. 国立極東総合医科大学

スペイン | 09. バルセロナ大学病院 アメリカ合衆国 | 10. メイヨークリニック

インド | 11. サクラワールドホスピタル ★



| 病床数と患者数の詳細 |

医科

診療科	平成30年度 病床数	診療状況(平成29年度実績)		
		病床数	外来患者数	入院患者数
内科Ⅰ	48 床	44 床	23,454 人	15,594 人
内科Ⅱ	49	47	50,372	15,875
消化器内科	48	44	40,393	17,228
循環器内科	35	32	13,752	11,083
血液内科	40	36	13,111	13,793
腫瘍内科	21	5	4,454	7,629
消化器外科Ⅰ	47	40	10,392	17,007
消化器外科Ⅱ	29	22	4,083	10,057
循環器・呼吸器外科	32	24	6,090	11,074
整形外科	59	54	26,961	20,777
泌尿器科	33	32	21,057	10,967
麻酔科	2	2	14,669	41
形成外科	25	25	7,553	7,498
乳腺外科	6	6	8,463	1,781
救急科	10	10	1,662	5,591
神経内科	25	16	14,897	8,709
眼科	35	32	40,644	12,936
耳鼻咽喉科	38	32	16,692	12,816
皮膚科	23	22	15,212	7,837
精神科神経科	70	70	45,523	18,813
脳神経外科	39	36	9,469	12,849
リハビリテーション科	20	20	53,573	2,368
産科	42	38	9,851	15,698
婦人科	32	30	22,788	9,997
小児科	33	39	17,680	12,122
放射線治療科	18	17	21,517	5,548
放射線診断科	1	1	51,051	260
核医学診療科	9	6	6,100	2,746
集中治療室(ICU)	10	10		(3,284)
新生児集中治療室(NICU)	9	9		(3,066)
新生児治療回復室(GCU)	(11)	(11)		(2,289)
母体胎児集中治療室(MFICU)	(3)	(3)		(1,102)
高度無菌室	6	6		(1,204)
共通病床	22	110		(9,667)
合計	916	917	571,463	288,694

※ 病床数()内は、産科病床数の内数。入院患者数()内は、各診療科入院患者数の内数。

歯科

診療科	平成30年度 病床数	診療状況(平成29年度実績)		
		病床数	外来患者数	入院患者数
予防歯科			6,705 人	
歯周・歯内療法科			30,616	
冠橋義歯補綴科			12,968	
高齢者歯科			13,797	
小児・障害者歯科			10,598	
矯正歯科			11,867	
歯冠修復科			13,589	
義歯補綴科	23 床	22 床	18,557	6,146 人
口腔内科			17,476	
口腔外科			13,779	
歯科放射線科			3,929	
歯科麻酔科			1,907	
高次口腔医療センター			9,623	
口腔総合治療部			2,610	
合計	23	22	168,021	6,146



ロゴマーク



北海道大学病院
HOKKAIDO UNIVERSITY HOSPITAL

国内用

花びらの形がハートの形で形成されていて、地域、患者、病院の3つのバランスで咲く病院をイメージ。3つの矢印は病院の3つの理念、センターにはより高みを目指すイメージの北極星が輝くことを表現。



北海道大学病院
HOKKAIDO UNIVERSITY HOSPITAL

海外用

大学を象徴するエンブレムの形の中に、7光星、ハルニレの木、HUH、アスクレピオスの杖と蛇を組み合わせ、緑と茶色は北海道の広大な自然を表現。